

建築研究所ニュース



平成19年3月27日

2007年3月25日能登半島地震について

2007年3月25日に能登半島沖で気象庁マグニチュード(Mjma)6.9の地震が発生しました。ここでは、FDSNとGSNの地震波形記録をIRIS-DMCからダウンロードして、地震時の断層面上の滑り分布を求めました。

解析の結果、断層運動の規模を表すモーメントマグニチュードは6.7、西北西 - 東南東方向に圧力軸を持つ、横ずれ成分を含む逆断層型の地震で、破壊は深さ約8kmから始まり、北東方向かつ地表に向かって約20km伝搬したことが分かりました。最大滑り量は約1.6m、地震時の断層破壊の継続時間は、約14秒と求められます。

主な断層パラメーターは以下の通りです。

地震モーメント $M_0 = 1.4 \times 10^{20}$ Nm (Mw 6.7);

破壊継続時間 $T = 14$ sec ;

(strike, dip, rake) = (47, 51, 115)

震源: (Lat. = 37.236 Lon. = 136.652, depth= 8 km).

[震央は防災科学技術研究所自動処理値を使用しました.]

詳細は、Webページを参照して下さい。

<http://iisee.kenken.go.jp/special/20070325japan.htm>

(内容の問合せ先)

独立行政法人建築研究所

所属 国際地震工学センター

客員研究員

(筑波大学大学院生命環境科学
研究科 助教授)

氏名 八木 勇治

電話 029-853-8491(直通)

E-mail yagi-y@arsia.geo.tsukuba.ac.jp

